

平成 27 年度 毛長川流域連絡会（第六期・前期） 活動報告書

毛長川流域連絡会の概要

- 第六建設事務所では、毛長川を地域に活かした親しめる川とするため、流域の皆様や足立区、東京都が情報や意見の交換を行うことを目的として、平成 15 年に毛長川流域連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。
- 連絡会は 2 年を 1 期とし原則として年に 2 回開催しており、平成 27 年度は第六期の前期として委員 23 名〔都民委員 13 名（団体委員 11 名、公募委員 2 名）、行政委員 6 名、臨時行政委員 4 名〕により運営されました。今年度は第 20 回として第六期 1 回目連絡会を開催し、第 21 回は現地視察を実施しました。

平成 27 年度の活動内容

第 20 回流域連絡会

- 日時：平成 28 年 2 月 8 日（月） 14 時 00 分から 15 時 00 分
- 会場：足立区花畑地域学習センター 二階 第一・第二学習室
- 参加人数：都民委員 10 名、行政委員 4 名、臨時行政委員 3 名
- 議題・議事概要

第五期の 3 回目として東京都からの報告事項をもとに、毛長川について意見交換が行われました。



1. 開 会

2. 事務局挨拶

- ・毛長川流域連絡会の概要説明
- ・資料の確認
- ・進行の説明
- ・都民委員、行政委員の紹介

- ・第六建設事務所 副所長兼工事課長挨拶
- ・座長、副座長の選出

3. 議 事

(1) 中川・綾瀬川圏域河川整備計画について (河川部)

〈概要〉

- ・「中川・綾瀬川圏域」は、東京都の東部低地帯に位置し、足立区、葛飾区、江戸川区の3区にまたがっている。東京都が管理する河川は、旧江戸川をはじめとして、旧江戸川、新川、中川、綾瀬川、新中川、大場川、伝右川、圀川、毛長川の9河川である。
- ・「圏域の特徴」は、荒川・中川・江戸川などに囲まれた東部低地帯として過去に幾度となく洪水・高潮などの被害を受けてきたことである。現在は堤防の整備等が進み水害は軽減されているが、安全性を向上させるという目的、整備後に人々が集い水辺にふれあえる河川づくりを目指すということで、現状の整備計画の改訂の準備を進めている。
- ・今回の河川整備計画の変更ポイントは、最大級の地震が発生しても堤防や水門、排水機場の機能が確保されるよう河川管理施設の耐震・耐水対策を示すもので、地盤が低い地域から耐震対策を進めることで計画を策定しており、毛長川は圏域の全体からすると地盤が高いので、今回は毛長川に特段の変更はない。また、毛長川の洪水対策については今回、耐震対策ということで変更はないが、今後、改定の動きが出て来た際にはこういった場を通じて、変更の説明を考えている。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 今の説明は毛長川に関することなのか、中川や綾瀬川の説明に感じるが？

(河川部) 圏域のうち、中川や綾瀬川等では河川整備計画の変更があったが、毛長川は現状の計画のとおりで特に変更はない。

(行政委員) 毛長川よりも海側、下流にある河川施設の耐震対策を行っていく計画となっているが、大きな地震等があると津波等が来る可能性もある。そういうものについて、中川や新中川の下流にある水門が全部閉まり津波等シャットアウトをするので、今回、その耐震強化をすれば、そういった機能が保てることになる。そういう意味ではこの計画も毛長川の地域の安全に関係していることになる。

(2) 毛長川の整備状況について (事務局) (埼玉県)

〈概要〉

- ・「毛長川の整備計画」では、48時間で217mm、2日間で217mm降る雨量、1時間に50mmの雨量、それらに対応出来ることを目標としている。将来的には48時間で355mm、つまり数十年とか百年に1回ほどの大雨に対応することを目指している。
- ・整備の進め方は、河道を広げるために①鋼管矢板を設置する。次に②河床掘削で川底を掘り、③鋼管矢板コンクリート被覆を行って化粧をする。最後に④修景を行う手順となっている。東京都が整備する区間の大半の①が終わっており、現在は、②の河床掘削工事を行っている。
- ・来年度は舎人橋上流にある未整備区間の工事に着手したいため、埼玉県土整備事務所、足立区、川口市と進め方について調整している。調整が調い次第、地元の方々に事業の目的、工事の内容、整備後の状況等について、説明したうえで工事着手して行きたい。
- ・埼玉県側では主に維持管理的な事業を行っている。毛長川は行政界が入り組んでいて埼玉県と東京都の管理区分が分かり難い状況であった。埼玉県では標識を設置して、看板が見える範囲であれば埼玉県か東京都なのかが分かりやすくなっている。
- ・災害時に消火栓が使えない場合を想定して、川の消火基地整備事業を行っている。埼玉県では消防

署と連携を図り川の水を利用した消火基地のようなものを作っている。毛長川では草加市消防署と協議して2ヶ所設置している。普段、施設は使用しないが消防訓練などにも利用してもらいたい。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 消火栓について、これだけの施設なら常に水量が無いと使えないことも考慮してもらいたいと思う。

(3) 平成27年度工事について (事務局)

〈概要〉

- ・毛長川河床掘削工事 (その1 3) は、延長約240mの区間で行っており、河床掘削してパイプラインを繋ぎ排水機場まで土砂を圧送し、土砂を搬出する。現在は排水機場にプラント設備を作っている最中で掘削数量は6,000 m³ (大型ダンプトラック約1,300~1,500台分) の予定となる。
- ・見沼代用水合流部工事は、昨年度は契約不調、今年度は負契約出来たが、受注者から契約解除の申し出があり工事が出来なくなった。来年度に発注の予定となる。
- ・新花畑橋下部工事その3の工事は平成27年7月から28年7月までの予定。工事の内容は橋梁の下部工事で、右岸、左岸に橋台を一基ずつ設置するため橋台の下に杭を打つ。その下に約25mの場所打ち杭を34本打つ。現在、場所打ち杭は終わっている。これから橋台の工事の予定。仮通路の確保ため一部道路の切り廻しを行っている。これは警察と協議のうえ交通整理要員を数名配置して歩行者・車を安全に廻せるよう万全の注意を払っている。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 新花畑橋の工事は、現場に工事終了期間が平成28年7月と掲示されている。近隣の方から橋は何時出来るのかという問合せがある。橋を通れるようになるのは平成30年前後ということなので、その旨を記載してほしい。

(4) 毛長川魚類調査結果について (情報提供) (足立区)

〈概要〉

- ・足立区内に生息する魚類の調査を平成26年の7月から10月に荒川・綾瀬川・毛長川・圀川の4河川6地点で調査した結果、毛長川では約13種類の魚が確認された。毛長川、ふれあい橋の上流付近では、確認種としてコイ、ギンブナ、オイカワなど13種類が確認されたが去年同様、特定外来種のカダヤシがまた今年も確認された。大正時代にボウフラを食べてくれるということで導入したが増えすぎてしまい、日本古来の生物に悪影響を与えているということもある。
- ・綾瀬川のようなコンクリート護岸のところは魚が棲み難いが、毛長川のような自然の堤防のあるところは比較的魚が棲みやすいようである。
- ・毛長川の水質状況について、DOは水に酸素がどのくらい溶けている指標で値が高いほど水質が良いといえる。BODは生物が消費した酸素の量で値が低いほど良いとされる。18年度を境に水質改善されBODは下がりDOは上がっている。
- ・環境省の規定の環境基準で、毛長川はBODが5以下に該当するC類型を満たしているので比較的綺麗であるといえる。C類型にはコイ、フナが見られ、もう少し水質が良くなってB類型になると回遊性のサケ、マスが見られる。さらに綺麗になると溪流のヤマメなどが生息するような状況になる。全体的には、ここ数年横ばいの水質状況だが悪い状況ではないといえる。

〈質疑・意見〉

(都民委員) 魚が生息するのは歓迎だが、年輩の釣り師が川に入っており、その対策を備えてもらいたい。谷塚橋から水神橋の間が特に釣り師が多い。

(5) 東京都下水道(毛長川流域)の状況について(臨時行政委員:東京都下水道局)

〈概要〉

- ・足立区の現在の下水道普及率は、概ね100%である。
- ・東京23区のほとんどが汚水・雨水を1本の下水道管に収容する「合流式」を採用している中で、足立区では環状七号線より北側、綾瀬川より東側の区域では専用の雨水・汚水2本の下水道管に収容、処理する分流式を採用している。分流式は汚水・雨水が専用の管に収容されるので汚水・雨水が混じることがない。毛長川周辺の汚水は足立区を西から東に通る汚水幹線により中川水再生センターで処理されて中川に放流される。雨水は足立区を北から南へ通る雨水幹線に収容され、荒川沿いにあるポンプ場から荒川に直接放流しており、毛長川への汚水・雨水の放流はない。
- ・足立区内での下水道事業は、老朽化対策のための再構築事業や震災対策を重点的に進めている。震災対策は、避難所、災害復旧拠点、北千住駅、綾瀬駅などのターミナル駅で、排水を受ける下水管の耐震化を進めている。現在、避難所は約200施設の耐震化が完了している。併せて緊急輸送道路におけるマンホール浮き上がり防止を進め、震災時に緊急車両の通行を阻害しないように整備を進めている。

(6) 毛長川周辺の水防について(事務局)

〈概要〉

- ・平成27年は、台風などの大きな被害が想定される時に設置される連絡体制が東京都全体で67回あった。
- ・水防本部では、大雨洪水等の警報が発表された時に警戒配備態勢の状況に応じて段階毎に第1～4の非常配備態勢に設置される。東京都の水防本部を設置した回数は13回であった。また、平成27年の足立区では、注意報8回、警報が3回出されている。
- ・平年降水量と比較すると平成19年と23年以外は平年降水量を下回っているがそれ以外は雨量が増えている。
- ・平成27年9月、関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊した時の毛長川の観測所の降雨情報によると、9月8日の2時から10日の18時位まで降っている。その間の時間最大雨量が32mm、累計が330mmになっている。六建の水防態勢は警戒配備態勢が9月9日15時2分に発令され、解除が翌10日の23時43分で要した職員数は16名だった。
- ・毛長橋地点の観測水位によると、雨が9日の12時位から降り始めており、同様に水位も9日の12時頃から水位が上がっている。10日の5時に最高水位である護岸天端下がり90cm、A.P.で3.29mまで上昇した。
- ・平成27年9月関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊した時の雨量、気象図によると、9日の21時の図と10日の6時の図を比べると同じ場所で継続して降っていることが分かる。その右側で台風18号が低気圧に変わったところに南側から湿った風と台風17号の湿った空気がぶつかって「線状降水帯」が発生し、長い間雨が降ったことになる。

(7) その他 次回流域連絡会について(事務局)

〈概要〉

- ・次回の第21回は杉並区堀ノ内二丁目にある善福寺川取水施設及び神田川・環状七号線地下調節池の視察を予定している。第18回連絡会でも話題になった治水対策の一環として東京都では地下調節池

の整備も進めており、その一例として既に大きな効果を上げている「神田川・環状七号線地下調節池」を選定した。神田川水系の治水対策の大きな取り組みの一つである。日程は、3月3日午後とする。

4. 閉会

第21回流域連絡会（現場視察）

- 日時：平成28年3月3日（木） 12時50分から16時00分
- 参加人数：都民委員10名、行政委員2名
- 行程：「竹の塚学習センター」前～神田川・環状七号線地下調整池（善福寺川取水施設）～
「竹の塚学習センター」前
- 参加：都民委員10名、行政委員2名

1. 開 会

2. 現場視察

善福寺川取水施設会議室で説明を受け、取水施設内を視察

〈概要〉

- ・善福寺川取水施設は、神田川の水害を少なくするために造られた施設である。川では処理しきれないほどの雨が降りあふれた場合、水害を防ぐ最も有効な方法は護岸を改修することである。しかし、川沿いに家が立ち並んでいる中で、工事を行う広い作業ヤードが必要になるため、現状なかなか整備が進まない。そのため、地下調整池を造ることによって、護岸改修と併せてトータルで治水安全度を高めていく。平成9年に一部供用開始されてから現在まで38回、水を取り入れた実績があり、平成25年においては、5回水を取り込んでいる。1年に5回は、これまでの最多の回数で、そのうち9月には貯留率100%の54万tの水を蓄えている。
- ・施設と川の間に堰があり、雨が降って川の水位が上がってくると、堰を自然に乗り越えて施設のほうへ水が入ってくる仕組みである。また、この神田川の地下調整池にはゲートが設けられており、ゲートを操作して取水のタイミングを調整できる。
- ・トンネルの中がほぼいっばいの状態から全てくみ上げるのに大体48時間かかる。これは、東京で次の大きな雨が48時間以内に來たことがないという統計的なデータを基に決めている。
- ・施設には、三つの川から水を取り込むことができる。大雨洪水注意報等が発令されると、休日、夜間関係なしに職員が配置につき、合計4人で水位モニターを監視する。



善福寺川取水施設模型の説明



操作室の説明

地下調整池

〈概要〉

- ・減勢池は雨の時期になると、6～7m水深がある池になる。壁際にポンプの吸い込み口がついており、ここから水を吸い上げて地上へ運ぶ。

- ・落ちてきた水は、連絡通路を通過して、本体トンネルまで運ばれる。150m 奥には、地下調節池がある。
- ・地下調整池の本体は、合計 4.5km キロ、内径 12.5m のトンネルとなっており、54 万 t の水を貯めることができる。
- ・通常はこの中に、6 万 t の川の水をためている。東京消防庁と協定を結んでおり、消防水利として利用するためである。



地下調節池の説明



地下調節池

3. 閉会